

第5回唐津市立学校通学区域審議会会議録（まとめ）

令和6年8月27日（火）午後6時～
大手口センタービル6階会議室

〔事〕：事務局、〔長〕：委員長、〔委〕：委員

唐津市の現状説明（小・中学校再編についての検討）

〔事〕：資料は、R12年までは現在の未就学児による推計で、それ以降の数字は市の人口推計データによるもの。推計データだけでは議論がしづらいつの意見があったため、R17年、令和22年、令和27年と、先々の複式学級及び1学年1学級解消のための統合案を、議論していただくためのたたき台として示している。

また、小規模校等選択制度（仮称）についても、大規模校や過大規模校等の児童数の増加解消と併せ、小規模校への新1年生の入学を認める案として示している。

〔長〕：複式学級と1学年1学級の解消に向けどういった可能性があるのか、皆さんに意見を聞くのが本日の主な内容。

教育長から受けた諮問に対し、答えをこの審議会で提出していく作業に移っていくが、その前に皆さんの意見、感想をまずは詰めていくためこれまで実施している。

小・中学校、大規模校の解消、学校選択制度について思ったところをどんどん自由に出していただきたい。

〔委〕：この児童推計による統合の考え方は、ただ単に複式学級解消のためだけで考えてあるのか。

〔事〕：複式学級の解消と、その次の段階として1学年1学級の解消ということになる。

〔委〕：そうなる問題点として、長松小と竹木場、肥前小が統合して学校が長松小になった時、バスの時間が早くなり子ども達はもっと早く起きないといけない。そういう問題を考えず単に複式学級解消ということであれば、ちょっと問題があると率直に感じる。

あと、小規模校選択制度については新1年生だけなのか。他の学年の考えはないのか。イメージとしてはわかるが、本当にそうなる時には考えてもらいたい。

〔事〕：今の段階での案ということで今日はお示ししているところ。現実的には無理ではないかなど、そういったご意見をいただくための案なので、思いついた問題点などをどんどん出していただきたい。

〔長〕：やはり通学となると、現実的、具体的な姿をイメージした上での整理し考えないといけない。特に選択制について、小1だけでは兄弟がいる世帯の場合、逆に難しいところがある。そういう予測や判断も必要では。

- ⑤：資料をフェーズごとに出してもらっているが、まとめて議論するのか。それともフェーズごとか。また、大規模校、過大規模校解消として選択制案があるが、何人から大規模校になるのか、再度確認したい。
- ⑥：この段階的な統合プランについて、目の前の複式学級解消ということで今現在動いているが、やはり将来を見据えた上でのいろんな検討を早め早めにやっておかなければいけないと思っている。そのため直近の統合だけではなく、10年後20年後のプランを持っておきたいため、そこまで議論いただきたい。
大規模校、過大規模校については国が示す基準がある。だいたい25学級以上が大規模校、31学級以上になると過大規模校となる。
- ⑦：フェーズごとに統合した場合、既存の校舎で対応できるのか。または建てないといけないのか。そういったところまで考えてあるのか。
- ⑧：校舎等のキャパについては当然準備した上でやらなければいけないため、現在の建物で受け入れることができないのであれば、そういった検討もしていく。
- ⑨：長期的な視点が今回大事になってくる。仮に令和17年に佐志小、湊小を統合し、令和22年にまた統合した場合、湊小に1年生で入った子は5年後また学校が変わる。長期的に見るのであれば、17年の時点での議論も必要ではと、この資料を見ながら思った。
学校のキャパの問題も大事だが、体育大会等の学校行事の際、今、親は歩いてきてくださいというスタンス。仮に22年の段階で見た場合、歩いてこれない状況になってくる。そういったことも検討材料に入れなくてはならない。
あと、中学校を統合した場合、部活動の問題も出てくる。スクールバスを出すとしたら、それぞれの部活の終了時間に合わせて出すのか、というのも出てくる。
仮にこの令和22年の状況が、校舎、設備、場所の問題等で難しいとなった場合、校区外申請の要件見直しも同時に議論したほうがいいのではないかと。そうすることにより統合が無理となった時、逃げ道をどうするか、そういった議論も一緒にできたらよい。
- ⑩：規模の大きさによりメリット、デメリットがあることはよくわかるが、やはり子ども同士揉まれたほうがいいのかと思うし、学びも半学級、小規模校よりもたくさんの中で、やはり30名ぐらいの学級のほうが、指導者もやりがいがあると思う。
例えば、フェーズⅢの西唐津小学校から呼子小まで統合の場合だが、場所の拠点を大まかにどのあたりで考えられているのか。
- ⑪：この資料は、単純に5年刻みでの、近隣の小学校区を統合するのであればこういった形になるといった、たたき台として出している。ある程度はキャパシティも考えてはいるが、今のままでどうかといえば、非常に厳しい面がある。
あくまで議論していただくたたき台としての資料であるため、最終的にこの委員会で複式学級、1学年1学級をできるだけ解消し、なるべく学校を適正規模に持ってい

くための方策を議論していただくための資料として見ていただきたい。

現時点では、まだ拠点についての検討まではしていないが、この委員会である一定の方向性をいただければ、それに沿って教育委員会として施策を考えていく必要がある。極論の形として示しているため、意見をいただいてから事務局で考えていく。

- ⑤ 委：小学校と中学校では少し考え方が違うと思うが、小学校、中学校の適正規模はどう考えてあるか。そのあたりを確認して議論したほうがよい。
- ⑥ 事：小学校、中学校とも、理想はクラス替えできる規模、1学年で2クラス以上が理想であると考えている。
- ⑦ 委：小学校も2クラスというのには少し異論がある。小学校は社会の入り口であり中学校と比べ成長度合いが全然違うと思う。規模を確保するために集めるよりは、住んでいる場所に近い、可能な限り地域の人と一緒に生活した方がいい。小学校まで2クラス必要とは思わない。複式学級は確かに解消したが良いとは思っている。
- ⑧ 事：いろんな学校でも確かにそういった意見がある。あえて言えば、少人数の学校にはその良さがあり、地域と学校と子ども達が連携し、よい形で運営されている学校が確かにある。
- 適正化においては、文科省が推進するクラス替えができる規模という考えを、やはり教育委員会としては根底として持っておかなければいけないところがある。
- ただ、小規模校や過小規模校、1学年1学級しかない学校を全否定することはできないと思っているため、統合の話をする際は、小規模校の良さがある一方、大規模校でしか学べないこともあり、両方を保護者に考えていただいている。
- 基本的な姿勢としては複数学級があったほうがよいが、やはり地域に入って行く中で、地域の特性や保護者の意見は当然聞いていくため、その中で話を進めていくことになる。
- ただ、この審議会の中では、今後教育委員会がこういった形で学校を再編していくべきかの方針のようなものを、やはり出していただきたい。そういった観点から全体的なところでの話し合いをしていただきたいと思っている。
- ⑨ 委：分校についてだが、分校はひとつの学校とみなされるのか。
- ⑩ 委：巖木では、巖木小学校の分校で瀬戸木場分校、天川分校など距離が遠い歩いて来れない所に分校があり、小学校としては巖木小学校だった。
- ⑪ 委：分校も1つの小学校とみなされるのなら、そういう制度でもいいのではないかと。1つの学校に統合せずとも、例えば大きな小学校があり、その分校として分散させる分散型、分校というかたちを作るのはどうか。
- ⑫ 委：そうなるとう複式学級、1学年1学級が解消されないため、この場の議論としては合わなくなる。

⑤：解消はされないが、集中するとまた大規模校寄りになるのでは。

⑥：やはり統合される学校はつらい部分がある。自分の所がなくなり、大きな学校に吸収され新しい学校になる。

逆に、大規模校を分割するということがあるのか。例えば選択制度は大規模校の解消のためとあるが、鏡山小は千人強で推移しており統合も何もされていない。これを分けることも考えられないか。久里のほうに鏡山小から行くなど、そういったことを考えられないか。肥前から長松小に行ってください、というのと変わらないのではと思う。

⑦：過去に長松小学校が分割されて、大志小学校に校区を持っていかれている。

⑧：そういう経緯があるのであれば、今後も考えられるということでは。

⑨：成和小学校も、長松小学校から町田4丁目を持っていった。

⑩：1つは、全体的な子どもが減っており、大規模校である鏡山小も長期で見れば減っていく中で、あえて校区分割は考えにくい。

もう1つの視点として、今は通学区域を教育委員会が定め、原則として通う学校を指定しているが、多様性と保護者ニーズが増えていく中、どうかというところがある。

ただ、これをむやみに全部の枠を外すと大混乱を招く。そのため、そこまで行かない範囲内で保護者ニーズ、通学区域の選択という形で応えられないかと考えた一面もある。

ただ、どこの自治体もそうだが、校区外通学と同じく、自分で校区選択した場合は子どもを保護者等が送迎しないといけないため、どこまで児童生徒の移動があるかは全く未知数であり、他の事例を見ても、一気に児童生徒が増えて複式学級が解消されたというような事例はなかなかない。そういう点では、この学校選択制というのは、保護者のニーズにできる範囲で応える、という意味合いが強い。

それと併せて、ある程度制限をかけることにより、大きい学校から小さい学校への動きがとれればということで、今検討している。

⑪：東唐津小学校出身者として、私達が子どもの頃は1学年53人だった。現在はもう47人で我々の1学年より少ない。5年間東唐津公民館長をして、時々学校に呼ばれて行くが児童がいない。同じクラスが6年間続く。2クラスあれば逃げ道があるが、6年間一緒は本当にきつい。

もう1つは、非常にきめ細かい指導をしていただき学力はすごく高い。ただ、五中に進学後も続くかというところではない。埋もれてしまう。なぜかというところ、小学校ではいろんな役をしたり楽しく過ごせるが、急に大人数になると打たれ弱い。そのため、外町小学校に通っている子も何人もいる。

だから、自由選択制にすれば逆に小規模校から大規模校に行く可能性がある。それと、一番心配しているのが、五中に行った時に、不登校率がすごく高かった。不登校、保健室登校、それをどうにかしたいということで、公民館同士で話し合い、外町公民館でも東唐津の子を受け入れて、小学校の頃から一緒に顔なじみになりなさいという

ことから始めている。

議論は大規模校から小規模校、いろんな議論があるが、そもそも子ども達のために一番いい方法を見つけるのがこの会であると思うため、個人の、地元の人間の意見として聞いてもらいたい。

⑤委：近くに玄海町があるが、例えば肥前地区の子がみらい学園に行くとか、そういった玄海町教育委員会との話はないのか。

⑤團：今のところはない。

⑤委：肥前は（玄海町に）近く、名護屋、打上あたりも行けるのでは、市内まで来ずとも解消できるのではと思った。難しいかもしれないが。

⑤團：（学校教育課長）私も教員で小規模校、大きな学校どちらも勤めており、どちらのメリット、デメリットも感じているが、どちらかといえば、この議論の先で考えると多様な子ども達同士のふれあいを保障してあげたいところがある。

分校では本校に行くのをものすごく楽しみにしている。実際、1対1の授業も経験があるが、1人で何役もこなすのは無理がある。そういう意味では、やはりたくさん子ども達のいろんな考え方があの中、というのは貴重。

そのため、少しでも多くの子ども達の中で揉まれるという環境を作ることが望ましいと体験的にも考える。

あと、玄海町との話はいろいろと難しい面があり、公立学校ということで市税なし町民税によりまかなわれているところがあるため難しい。子どもの通学、保護者の送迎というところでは近いほうが望ましが。

⑤委：個人的な意見ではフェーズ1は現実的と思うし、あり得ない話ではない。西唐津小学校の推計を見て、こんなに減っていくのかというのがあり、実際、2クラスずつあった学年が、今年度は2学年で単学級になってしまった。

やはりそうなってくると、学級編成や子ども同士の間関係の中で、この子とこの子は分けたいとか、親同士の関係も結構いろいろとあり、3クラス、4クラスも欲しい。今の子ども達もいろいろ摩擦があり、人間関係を学ぶ、生きる力をつけるという意味では、むしろ小学校低学年から揉まれたほうが慣れていくためには子ども達にとってもいい。案外、一緒になることを子どもはそうは拒まない。

ただ、現実的なところでは拠点となる場所、そこが保護者の中でネックになるのではないか。そういうところで、フェーズ1は現実的と思う。

⑤委：22年の数字を見て思ったが、長松小学校に竹木場から肥前も全部ではなく、竹木場と肥前だけであれば複式、1学年1学級も解消できる人数になるのでは。あと湊小から名護屋小学校、打上、呼子、これもフェーズ1資料の令和22年では180人ぐらいになり1学年1学級ではないので、今後のエリア、規模を小さめに見直してみてもよいかと。佐志小と西唐津小はくっついても可能だろうが、湊は名護屋のほうが近いだろうから、どこかに新設なり、エリア見直しをされてもいいと思う。

⑧：このエリアにした基準などは何かあるか。

⑨：まずは隣り合った校区ということで考えた。それにやはり旧市、旧町というのがあったが、それを取り払わなければいけないエリアもある。エリア的なものについては、先ほどおっしゃっていただいたご意見を参考にさせていただきたいと思う。

⑩：おそらく旧市町村の感覚での校区編成が話にある。もう唐津市として統合しているため、旧市町村という概念を取り払えば、拠点となる学校の半径から校区編成をしてもよいし、可能ではないか。

校区で見えて減ってくるからどこかに集めるではなく、拠点となる学校を1つ作り、どこから何キロ以内とか、もともと何キロという基準があるので。それで校区自体を全部見直していけば、通学が極端に遠くなるということもなくなるかもしれない。次回早急にそれを見直すのは大変と思うが、そういった視点が必要かと思った。

⑪：玄海町とはそもそもの教育委員会の地区が違うためなかなか難しいところはあるが、今出された意見は、いわゆる旧唐津市とそれ以外というところに、同じ唐津という時点で隣接校区、エリアがそこにとらわれなくていいという可能性、検討のイメージをとるところ。

今回の数値はあくまでデータ上の数値で、これまでの既定路線の中での形で出しているものなので、これが令和12年度、そして17年度、令和22年度、短期、中期、長期と、答申に向けてある程度通学時間、拠点、世帯の実情、価値観や諸条件、読めないところがあるが市から示すだけでなく、私達の方から具体的に言っているのではと思う。

今回は統合のシミュレーションとしてイメージしやすいように案をたたき台として出している。各委員の皆さんも持ち帰り話題にしてもらい、いろんな意見を出していただければ。

欠席の委員の方も、自由意見について質問、感想、意見を随時出していただければいい。ちなみに今日、自由意見として10年後の児童生徒数を考えこの先を計画して統合していくべきという意見をいただいている。

今日の話にあった、長期的なところも見越して想定しながら、当然早期的な複式学級と1学年1学級の解消がこの諮問による私達が答申する中身ではあるが、そこだけではなく、今後の予測も含めて検討しないといけない。

前回の審議会が平成19年。もう10年以上もこの会が開かれていない。5年後に必ず次があるわけでもないため、先を見越して検討する必要がある。

⑫：今日いろいろ意見が出たが、私も5年ごとにこんなに変わるのかと感じたのは一緒。昔二中があり、西唐津小と佐志小校区が二中校区だった。なのでこれを見た時に、佐志と湊が一緒？なぜ西唐津と佐志ではないのか？と思った。

だが考えてみれば、旧市内と郡部、唐津市が合併して随分経つが、もう私も孫がいる世代ばかりで、西唐津小と佐志小がもし一緒になっても、その頃を知るの祖父母世代であり、もう世代が変わってることを感じながら聞いていた。

あと感じたのが、資料にあった選択制度について、大規模校に移る家庭は多いが、大規模校から小規模校はどうだろうか、これで解消できるかといえば、なかなか難し

いと思った。保護者の職場、通勤先がその小規模校の近くになるとかしか思い浮かばないが、全て自由とすれば大混乱となるため、ある程度の縛りということで、いろいろ提案していくのも大事と思った。

- ⑤：保護者目線から言えば通学時間が早い。うちは小学校では1時間かけて3km、小1の時から朝は6時半過ぎに家を出るような状態が続いていたため、やはり保護者の立場として来た時に、拠点というのをまず考えさせる会議だった。

複式学級もいいところもあるが、無くすとすれば、もう目の前の1学年1学級をこなし、大きな2クラスにする案のほうがいいのかと思う。

- ⑥：今年度は巖木小と簗木小で統合しクラス人数は30名前後だが、それでも少ない1クラス。資料では令和12年には統合したにもかかわらず47人になる。

先を見据えてと言われていたが、近い相知小との統合も早々と検討しておくべきかと。

巖木地区の保護者からすると、仕事は唐津市方面の方も佐賀方面の方もいる。通勤時の保護者送迎も出てくると思うが、旧巖木小校区は歩いて通学しているが、スクールバスが出ている旧簗木校区も全然距離がない所もある。学校内でも差が出ているため、そのあたりを含めて協議するべきではないか。

- ⑦：私も保護者目線だが、やはり広域で統合してしまうと、保護者負担が増え、例えば高学年は体調が悪くても自分たちで帰れるが、小さい子はすぐに迎えに行けない。

今、中学校側も学校負担、保護者負担を少しずつ減らそうとしている時代になってきている中、こういった広い統合となると、保護者の負担面でいろいろ難しいと思って話を聞いていた。人口増加が一番よいが、35人を少人数でクラス分けたり、先生の問題もあると思うが少人数で2クラスできるような時代になればよいと思う。

- ⑧：もう、何年後にこうしますという決定の下で動くのであれば、早めにそういった地区、学校単位で、今の父兄に対し何年後にはこうなる、と伝えた方がもっといろんな意見が出ると思う。

小さい学校には小さい学校なりの良さが確かにある。七山小は保育園からずっと小学校に上がってというような、もう本当に友達という感覚。それが大規模校に行った時に実際いいか悪いかだが、今の低学年の子ども達に以前そういう話をした時には嫌と言っていた。今の友達がいいという感じ。

これはあくまで大人が決めていることなので、子ども達にもそういう意見を聞いてみるのもよいのではと思う。

- ⑨：ある程度年をとった人間が考える考え方では、昔になじんだ考え方にしかやはりならない。それを打開しないと、やっぱり今の時代に合ったニーズ、考え方、答えが出ないと思う。校区を分けて考えると、校区同士をくっつけた方がニーズ的にバランスが良くなるか、逆の発想で大きい所をばらすなど、そういった考え方、大変いい話があるんじゃないかと思う。

事務局側の考えについても、皆さんの上の方がまだおられると思うが、その方々も考え方を覚えてもらえるような意見、どうせここで意見を聞くのであれば、それをま

とめて上にも上げていただきたい。

びっくりしたところだが、22年、27年というところまでこの中で話をされていたが、今の私達がここまでのことを考えて決めていいのかと。ちょっと怖いところがある。3、4年後には当然私達はいないだろうし、その時にいる人達が5年後、10年後とかは考えるべきではとも思い、ちょっと不安に思った。

⑤：たたき台であることはわかるが、やはりいろんな校区を合わせるとなれば、スクールバス問題がどうしても出てくる。あちこちから同じ時間ぐらいに着くとなれば、学校が混乱する。

例えば、加部島小では呼子小に統合した際、学校に連れて行くことは当然できなくなり、近くの福祉センターで乗降し学校まで歩いて行っているが、中学校は海青中で駐車場広いため、串、加部島あたりから出ている分が、全部同じ時間に着くようになってきている。

私は実家が佐志校区の枝去木だが、枝去木の子はワンマンバスで通学している。それが不思議で、自分の兄弟の子は未だにワンマンバスで通学しているから、スクールバスが出ているのがずるいと、やはりそんな意見も聞く。

なので先々統合するにしても、校区を簡単に崩すのは無理かもしれないが、やはり距離のことも考え、ここであればスクールバスが1台でも少なくできるのではないかなど、そういうところも見据えて、統合も考えられたらいいと思った。

⑥：それでは、皆さんだいたい意見を言われたと思うが、何かあれば自由意見で構わないので、事務局のほうに報告していただきたい。時間が短縮できず大変申し訳ないが、これで閉会としたい。

次回には答申に向けた形でのたたき台が出てくると思う。次回を11月ぐらいということで、今日の内容をまた地域へ持ち帰り聞いてみたり、いろんな形で委員の皆さんが情報を次回持ち込めるよう、またよろしくお願ひしたいと思う。

本日はどうもありがとうございました。